

第44回仙台市中学校新人柔道大会要項

1. 主催 仙台市中学校体育連盟 仙台市教育委員会
2. 主管 仙台市中学校体育連盟柔道専門部
3. 目的 仙台市内中学校生徒相互の親睦と柔道技能の向上と普及をはかる。
4. 日時 令和元年10月12日(土)～13日(日)

| 10月12日(土) | 10月13日(日) |
|--------------------------|-------------------|
| 【男女団体 予選・決勝】 | 【男女個人戦】 |
| 7:30 役員集合・会場準備・点検 | 7:30 役員集合・会場準備・点検 |
| 8:00 開場 受付 | 8:00 開場 |
| 8:15～ 男女団体戦 非公式計量 | 8:20～ 監督会議 |
| 8:40～ 公式計量 柔道衣検査 | 9:00～ 男女個人戦 |
| 9:10～ 監督会議 | 13:30～ 表彰式・閉会式 |
| 9:40～ 開会式 | 14:00～ 会場撤去 |
| 10:00～ 競技開始 | |
| 12:00～ 表彰式 | |
| 個人戦受付 8:00～10:00 | |
| 表彰式後30分間 個人戦非公式計量 | |
| 非公式計量終了後 個人戦公式計量・服装検査 | |
| 公式計量終了後 監督会議 | |

5. 会場 宮城県武道館(仙台市太白区根岸町15-1 TEL249-1216)

6. 参加資格 ① 仙台市内の中학생で、柔道修行者であること。

② 個人情報の取り扱いについて次のことに同意すること。

大会主催者は個人情報保護に関する法令を遵守し、取得する個人情報について適正に取り扱う。取得した個人情報は競技大会の資格審査、競技大会運営上必要なプログラム編成及び作成、掲示板、報道発表、記録発表等、競技運営および協議に必要な連絡に利用する。

7. 種目 ① 男子団体戦

各校1チーム出場。1チーム5名とし、**体重の重い者を大将とし、以下順次体重順とする。**(補員3名を登録できる)

② 女子団体戦

各校1チーム出場。1チーム3名とし、**体重の重い者を大将とし、以下順次体重順とする。**(補員2名を登録できる)

③ 男女個人戦 ①エントリーは各階級4名以内とする。

男子 50 55 60 66 73 81 90 90超

女子 40 44 48 52 57 63 70 70超

8. 競技規則 国際柔道連盟試合審判規定(2018~2020)及び国内における「少年大会特別定」今大会申し合わせ事項によって行う。

(1) 団体戦

① 男子は1チーム5人制, 女子は1チーム3人制により試合を行う。

② チーム編成は, 男女とも体重の重い者を大将とし, 以下順次体重順とする。交代の選手と入れ替えた場合においても, 同様に体重順とする。試合毎の選手位置の入れ替え及び一度退いた選手の再出場は認めない。

※ 選手変更は, その都度監督が所定の用紙に記入し, 以下の通りとする。

ア 委員長に提出。

イ 記録本部に提出する。

ウ 試合会場のオーダー用紙を顧問が訂正。

※ ただし提出締め切りは, 以下の通りとする。

ア 試合開始の1試合前までとする。

イ, ウ 提出締め切りは, 試合が始まるまでとする。

③ 試合時間は3分間とし, 代表戦における延長戦(ゴールデンスコア)は無制限とする。

④ 優勢勝ちの判定基準は, 「一本」「技有」又は「僅差(『指導』の差2)」とする。

⑤ 優劣の成り立ちは以下のとおりとする。

「一本」 = 「反則勝ち」 > 「技有」 > 「僅差」

⑥ リーグ方式の順位は, 次の方法によって決定する。

ア チーム間における勝ち, 引き分け, 負けの率による。

イ アにおいて同等の場合は, 勝ち数の合計による。

ウ イにおいて同等の場合は, 勝ちの内容により決定する。

エ ウにおいて同等の場合は, 負け数の合計による。

オ エにおいて同等の場合は, 負けの内容により決定する。

カ オにおいて同等の場合は, 1名による代表戦を1回行い, 決勝トーナメント方式への出場チームを決定する(3校同等の場合は, 代表者3名によるリーグ方式を行う)。

⑦ トーナメント方式の順位は, 次の方法によって決定する。

ア チーム間における勝ち数による。

イ アにおいて同等の場合は, 内容により決定する。

ウ イにおいて同等の場合は, 1名による代表戦により決定する。

⑧ 代表戦は任意の選手とし, 判定基準は団体戦と同様とするが, 3分間の本戦で得点差が無い場合は延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。

延長戦（ゴールデンスコア）で新たに指導差がついた時点で勝敗が決する。

(2) 個人戦

- ① 各階級トーナメント方式とする。
- ② 試合時間は3分間とし、延長戦（ゴールデンスコア）は無制限とする。
- ③ 勝敗の判定基準は、「一本」「技あり」又は「僅差（『指導』の差2）」とする。
得点差が無い場合は延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。
延長戦による勝敗の決定方法は団体戦と同様とする。

(3) 柔道衣は白色とする。

(4) 講道館から正式に段位証書が交付されている有段者は黒帯を用いること。

9. 試合方法 (1) 団体戦

男子・女子は予選をリーグ戦で行い、各組の1位と2位のチームで決勝トーナメントを行う。ただし、参加チーム数によっては全参加チームによるリーグ戦を行う。

(2) 個人戦

男女ともトーナメント方式で行う。ただし、出場選手が3名のときはリーグ戦とする。

10. 計量及び柔道衣点検

(1) 計量

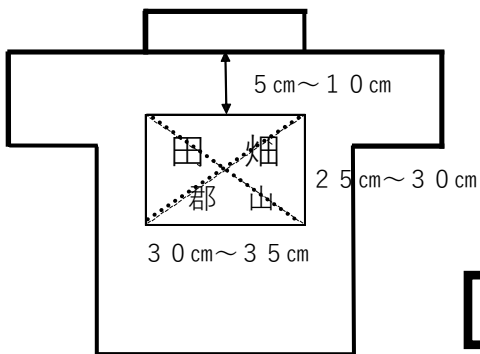
- ① 公式計量の前に非公式計量を行うことを認める。
- ② 非公式計量では指定時間内に自由に体重を計測できる。
- ③ 公式計量は指定された時間に1回とし、再計量は一切認めない。別室計量が必要なものは予め申し出ること。
- ④ 公式計量の服装は、男子は下穿き、女子はTシャツと下穿きの着用を認める。包帯・サポーター等の着用は、試合に出場する時と同じように身に付け点検を受けること。ただし、サポーターについては、金具等が入っているものは使用できない。使用した場合は反則負けになる。
- ⑤ 団体戦では登録選手全員が測定を行うこと。
- ⑥ 個人戦では定められた体重区分にないものは失格とする。

(2) 柔道衣点検

- ① 全日本柔道連盟柔道衣規格に合格している認証柔道衣、帯を着用すること。
- ② 柔道衣にはゼッケン（学校名・名字入り）を縫い付けて出場すること。
 - ア 布地は白とする（晒・太綾）。
 - イ サイズは横30cm～35cm、縦25cm～30cm
 - ウ 名字は上側2/3、学校名は下側1/3の割合を基準とする。
 - エ 書体は太字ゴシック体を基本とする。男子は黒色、女子は赤色。
 - オ 縫い付け場所は襟から5cm～10cm下部の位置で、周囲と対角線を強い糸で縫い付ける。
 - カ 学校名に中は付けないこと。ただし、平成30年度以前に購入していた柔道衣は

例外とする。

- ③ 女子は上衣の下に次のいずれかを着用しなければならない。
 - ア 相当の丈夫さがあり、下穿きの中に入る十分な長さのある白色、または白色に近い色無地のTシャツ。
 - イ 白色、または白色に近い無地のレオタード。
- ④ 柔道衣点検の際は、試合時に着けるサポーター等を着用して受けること。
- ⑤ 胸のマーキングは学校名・校章のみ許容する（道場名は不可）。ブランド商標以外のメッセージやイニシアルなどのマーキングは認めない。
- ⑥ 下穿きの下に膝下より長いロングスパッツを着用することは認めない。



※参考 IJF 基準柔道着(認証柔道衣)

図1

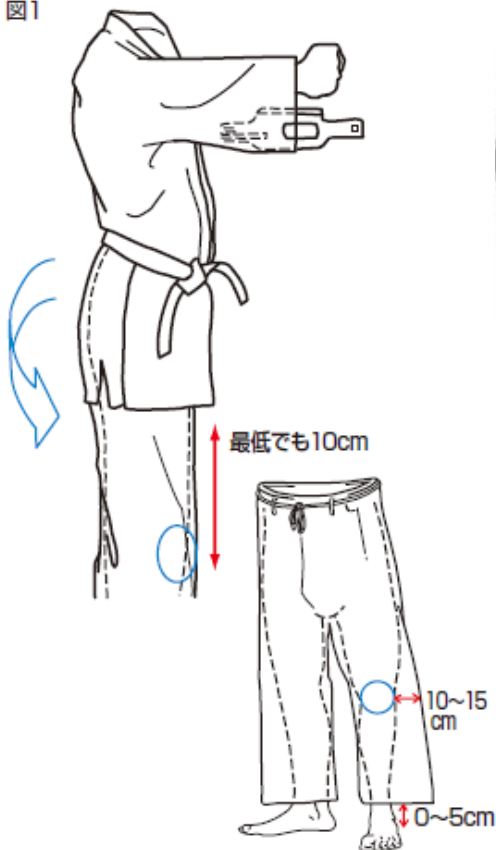


図2 拡大

図3

袖は、柔道衣コントロールを受けるときの高さまで上げた時、手首を含め柔道衣に覆われていなければならない。

胸骨の一番上から襟の重なりあう部分まで垂直で 10 cm未満でなくてはならない。
上衣の併せ目で下襟の長さが、水平で少なくとも 20cm なくてはいけない

<国内大会における女子選手T シャツのマーキング>

- ① 色は白，半袖，丸首
- ② 製造業者マークは、最大20 cm²のサイズであれば認められる。柔道衣を着用し

た際に、製造業者マークが見えてはならない。

- ② 正式な国家、NOC、もしくはIJF 加盟連盟のエンブレムを左胸に固定してつけることは認められる。大きさは最大100cm²とする。
- ③ 所属名称もしくは、所属を表すエンブレムを左胸に固定してつけることは認められる。大きさは最大100cm²とする。いかなる商業的なマーキングもつけてはならない。

11. 引率及び監督等

(1) 監督、引率は当該校の校長・教員・部活動指導員(※1)とする。ただし、部活動指導員は教育委員会設置要項のもと、以下の条件を満たしていなければならない。

- ① 満20歳以上であること。
- ② 主催者からの要望があった場合、大会運営に協力する姿勢があること。
- ③ 他校と兼務していないこと。
- ④ 中学校体育連盟の主催とする研修会を受講していること。
- ⑤ 次のいずれかに当てはまる者とする。

ア 教育職員免許法に基づく免許を有する者。

イ 公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導資格を有する者。

ウ 競技の専門性と学校教育に関する理解を有し、適切な指導を行うことのできる者。

※1 ここでいう「部活動指導員」は、学校教育法施行規則第78条の2に示されている者であり、学校設置者により任用されている者をいう。

(2) 部活動指導員が監督、引率をする場合、教育活動の一環としての大会であるとの観点から、「顧問または当該部活動を担当する教諭等」(※2)がチームに帯同すること。

※2 「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」1 部活動指導員の職務 第2留意事項(3)(4)より。

(3) 大会では外部コーチを置くことができる。ただし、令和元年度(平成31年度)に外部コーチ登録をした者のみとする。外部コーチには教員の登録を認めない。また同一人が複数校の外部コーチになることはできない。

(4) 全日本柔道連盟が示す「試合場におけるコーチの振る舞いについて」を熟読し参加すること。

(5) 審判員に準じた服装をすること。

12. 申し込み 別紙申込用紙に記入の上、**9月2日(月)16:50**までに仙台市立郡山中学校・田畑宛てにデータをC4thで、申込書の原本は**必着**。東北学院と宮教大附属は委員長のメールアドレスに送ること。

13. 抽選会 令和元年9月10日(火) 午後3:00～ 於 仙台市立台原中学校

14. 大会参加費 一人400円とする。(大会当日、受付にてお願いします。)

15. 表彰 (1) 男子・女子団体

優秀校は、男子・女子とも第3位まで表彰する。

(2) 男子・女子個人

優秀選手は男女とも第3位まで（男女とも4名）表彰する。ただし、出場人数が少ない場合には、部会で表彰人数を定める。

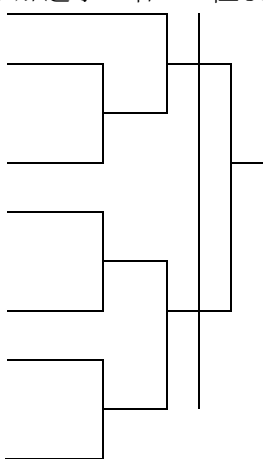
出場選手が少ない場合の表彰（内規）

| 参加者数8名以上 | 参加者数7名～3名 | 参加者数2名～1名 |
|--------------|-----------|-----------|
| 3位（ベスト4）まで表彰 | 2位まで表彰 | 1位のみ表彰 |

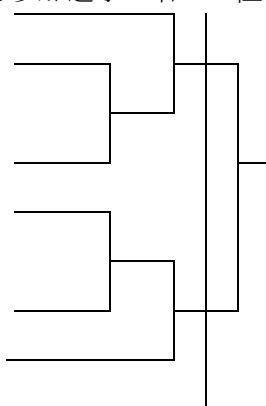
<内規の基準>

- ・入賞選手を決定するための決定戦は行わない。
- ・7名以下の場合の表彰は以下の通りとなる

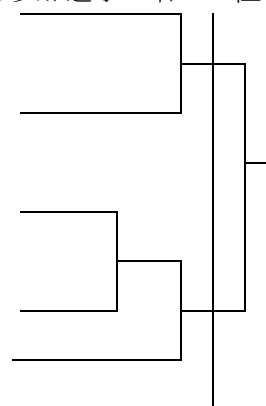
●参加選手7名→2位まで



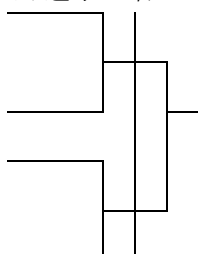
●参加選手6名→2位まで



●参加選手5名→2位まで

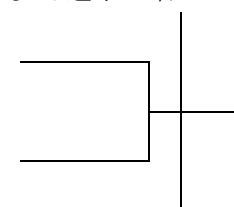


●参加選手4名→2位まで



●参加選手3名→2位まで
リーグ戦

●参加選手2名→1位のみ



<確認>

※棄権により人数が少なくなった場合でも大会にエントリーした選手の数に即して表彰を行う。

(例) 当初8名だった（トーナメント表には8名の図がある）が、棄権により7名になった場合には、3位（ベスト4）まで表彰を行う。

16. その他
- (1) 柔道精神に反する一選手は大会への出場を停止する。
 - (2) 柔道選手らしからぬ髪型（パーマ、剃り込み、染色・脱色、異常なかりあげ等）や眉（剃り込み・剃り上げ）の認められる選手の出場は認めない。
 - (3) 試合会場は、役員、監督、選手、生徒役員、申請をした外部コーチ、推薦のあった協力審判員のみに入場になりますので、ご理解、ご協力をお願いします。
 - (4) 迷惑駐車・係への暴言を禁止する。今回も各学校の保護者のために、駐車券を各学校配布する予定。駐車場内でのトラブルに関しては、**大会事務局は一切責任を負いかねます。**路上駐車や近隣の施設への無断駐車は警察に通報さ

れます。時と場合によっては、解決するまで試合を止めることもあります。ご協力をお願いいたします。

- (5) ゴミの持ち帰り徹底をお願いします。
- (6) 開場の際、体育館入り口は混雑が予想されるので係の指示に従って整然と入場して下さい。
- (7) 外靴に関しては、各自ビニール袋に入れ、自己管理をして下さい。選手、保護者も同様です。
- (8) 1階は素足（上履きを使用しない）とし、下足は各自管理する（上履き下足箱は使用しない）。
- (9) 館内でのフラッシュ撮影は競技の妨げになるため禁止する。
- (10) 貴重品は各自、各校で管理の徹底をお願いします。男子選手の更衣・荷物置場としては観客席を使用する。また、女子選手の着替えについては、指定された更衣室（1階）を利用してください。ただし、更衣室に荷物を置いたままにすることのないようにお願いします。
- (11) 開閉会式等の式典の時は、静かな雰囲気をお願いします。特に表彰式は、入賞選手に対し、観客も含め全員で讃えたいので、生徒、関係者、保護者の皆様の会場全体の雰囲気作りに御協力願います。
- (12) 昨年度の各階級の優勝者は以下の通りである。

| | 団体戦 | 六郷中学校 | | | 団体戦 | 広瀬中学校 | |
|--|--------|-------|-----|--|--------|-------|-------|
| | 男子 | 50kg級 | 小林 | | 館 | 女子 | 40kg級 |
| | 55kg級 | 伊藤 | 広瀬 | | 44kg級 | 佐々木 | 七郷 |
| | 60kg級 | 今井 | 中田 | | 48kg級 | 佐々木 | 鶴谷 |
| | 66kg級 | 島野 | 柳生 | | 52kg級 | 大槻 | 東仙台 |
| | 73kg級 | 板橋 | 六郷 | | 57kg級 | 横野 | 七郷 |
| | 81kg級 | 熊谷 | 宮城野 | | 63kg級 | 高野 | 七郷 |
| | 90kg級 | 佐々木 | 将監東 | | 70kg級 | 参加者なし | |
| | 90kg超級 | 尾形 | 郡山 | | 70kg超級 | 参加者なし | |

(13) 試合会場

| 役員・審判席 | | | | | | |
|------------|--------|-----|----------|-------|-------|--|
| 記録本部 | | | | 記録・計時 | 記録・計時 | |
| 出場選手待機スペース | 第2試合場 | | | 第1試合場 | | |
| | ケアシステム | 視察席 | 接骨ボランティア | | | |
| 応援席（2階） | | | | | | |

(14) 「国内における少年大会特別規定」の適用について

第17条（抑え込み）付則に次を加える。

寝技の攻撃・防御において、脊椎及び脊髄に損傷を及ぼす動作と判断したときは「待て」とする。

第18条（禁止事項と罰則）

指導（軽微な違反）

1. 立ち姿勢で相手の後ろ襟、背部又は帯を握ること。

ただし、技を施すため、瞬間的（1, 2秒程度）に握ることを認める。

（注）中学生は、試合者の程度に応じて、後ろ襟を握ることを認める。

2. 両膝を最初から同時に畳について背負投等を施すこと。

3. 関節技及び絞技を用いること。

（注）中学生は、絞技を用いることは認める。三角絞は認めない。

4. 無理な巻き込み技を施すこと。

5. 相手の頸を抱えて大外刈、払腰などを施すこと。

6. 小学生以下が、裏投を施すこと。

反則負け（重大な違反）

1. 攻撃・防御において、故意に相手の関節を極めること。

2. 「逆背負投」（通称）の様な技を施すこと。

3. 両袖を持って投げ技を施すこと。

① 寝技の攻撃・防御において、

頸の関節及び脊椎等の故障につながると審判員が、判断したときは「待て」の宣告をする。また「春日ロック」「エビぞり」「俗称、手三角」等は、危険と判断したら、早めに「待て」を宣告し立たせる事とする。

※ 脚を交差して相手を制しているだけの状態は、三角絞とはみなさない。

また、通称「三角固」の体勢となった時点で、危険な状態ではないと判断しても、交差している脚を直ちに解かなければ「待て」とする。交差していた脚を直ちに解けば、寝技の攻撃・防御は継続となる。

② 寝技の攻防や「抑えこみ」の宣告の後でも、本部席や救護席、壁等の障害物に触れた場合は「待て」とする。また、監督、コーチ、控え選手に触れた場合も同様とする。隣接する試合場で抑え技が決まっている場合は抑え技を優先する。

③ 掛け逃げや消極的かどうかの見極めは、技の回数や両手が離れたなど表面に表れることだけで判断するのではなく、心理的側面から判断して罰則を与えるようにする。

④ 両膝を着いて背負い投げをして締められる。締めが外れ両膝をついた選手の攻撃が始まった。ここで「待て」（両膝の反則を犯した選手が有利になった時点で）「指導」…流れをしっかりと見ること。

※ 安全を第一に考え、危険と判断した場合は「待て」の宣告を。

- ⑤ 場外に両足が出た時点で「待て」をかけること。技の攻防から場外に出た場合にペナルティーは無いが、技の攻防がなく、回り込みが遅く場外に出た場合は出た方に「指導」となる。場外に押し出した場合は「押し出した方に指導」。
- ⑥ 「反則負け」について
柔道精神に反する行為により反則負けとなった選手は、それ以降の試合に出場することはできない。それ以外の反則負けについては出場することができる。
- ⑦ 両者反則負けについて
個人戦において本戦で「両者反則負け」の場合はGSを行い、さらに「両者反則負け」の場合は監督が立ち会いのもと選手が抽選をして上位進出者を決める。掲示、記録上は「両者反則負けによる抽選」とする。
- ⑧ 止血等の処置について
選手に近い副審が立ち会いの下、場外において救護係を呼び処置をしてもらう。
- ⑨ 「試合場でのコーチの振るまい」「脳振盪対応」については規定通り適用する。特にコーチの振るまいについて、「待て」から「始め」までの間のみ「攻めろ」などの指示を行うことが出来るが、試合続行中は指示が出来ないことを徹底させていく。なお観客も同様であるが、注意する際は当該校監督に行うこととする。
- ⑩ 両袖をもって施す技について
【「両袖を持って施す投げ技の禁止」について（補足説明）で併せて両袖持ちの状態から相手に抱き着いて小外掛、大内刈りで後方に浴びせ倒すことは、後頭部強打の恐れがあり禁止とする。出足払い、支釣込足等を施して、相手を背部あるいは上部側面から着地させることまで禁止するものではない】とあるが、技を掛けられた選手が受身を取ることができず、頭から落下するなど危険な状態になった場合、主審副審で合議をし、ジュリーを含めて100%危険な技と判断した場合、技を掛けた選手の反則負けとする。また、ケアシステムを用いた試合については、映像による判定を優先する。
- ⑪ 反則負けにより勝敗を決する場合は本戦でも、GSでもジュリーも含めて確認をする。
- ⑫ 礼法について
試合の際、互いに礼をした後は、互いにフェアな状態となったのを確認し、試合を開始する。相手に組みに行こうと手を挙げたり、ジャンプしたりしている場合は、礼をやり直させる。また、試合終了後にガッツポーズをする選手がいた場合、相手に対する敬意を払う意味合いがあることを伝え、口頭注意することもある。

⑬ コンタクトレンズについて

試合中にコンタクトレンズが外れたり落したりした場合、直ちにそれを装着することができないが試合を続行する場合、レンズがあれば主審が選手から預かり当該選手の監督等に渡す。